

P-NPOICP
NPO経営資源開発研修

「バガス製品普及啓発事業の発展」

～エコ学園祭から突破する“エコ偽装ショック”～

2008. 12. 13
地球と未来の環境基金 (EFF)
発表者：黄瀬部真光
インターン生：佐藤美紗子

「森林資源の持続的な活用」をめざして!

住宅や紙など、木材から作られている製品は多数あります。
この森林を持続可能な形で活用するには?

そのひとつの提案が「バガス」です。

EFFの野望 「バガス」を用いて
消費者レベルでの環境配慮製品の
ブーム再燃やムーブメントをおこす!

現状分析

問題 バガス商品の市場の伸び悩み

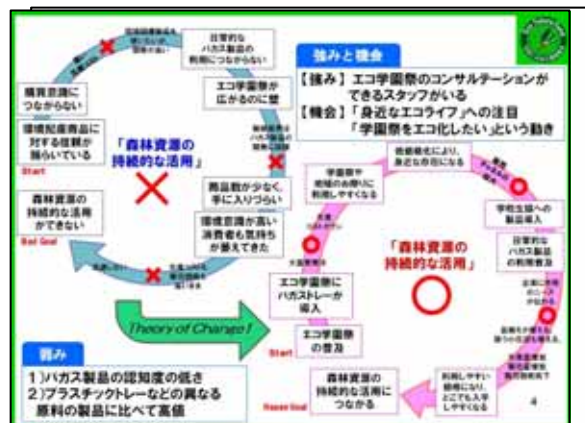
課題

- 1) バガス製品の認知度の低さ
- 2) エコ偽装で環境配慮“紙”商品に不信感
- 3) 異なる原料の製品に比べて高価

原因

- 日本の製紙メーカー設備が木材チップと古紙に特化しており、あまり多くの製品はなく、バガスパルプを扱うことが高コストにつながる。
- 製紙メーカーや紙製品を扱う企業に働きかけても、消費者のニーズがなければ商品化は難しく、単価は高い。

バガスレポリューション!!



ターゲットの設定

狙っているターゲットは 消費者のニーズ、ムーブメントやブームを創出する火付け役となる突破口

狙った突破口 **大学生・エコ学園祭**

- 1) 学園祭を足がかりに、各大学の学園祭/購買/売場ターゲットとして販路チャネルを広げる。
- 2) 学園がバガス製品を扱うようになれば、そのニーズは地域の産地、製紙工業界に伝わる可能性が高くなる。

バガストレーを導入した場合の市場規模

全国719大学の場合、約1億8千万円(単利3,600万円)
100大学の場合、2,500万円(単利500万円)
※100大学の既設11ヶ所ターゲットは、販路拡大に向けた学生のネットワークを構築して行う予定。

環境配慮製品を使って森を守る!

「エコ学園祭」実現のサポート

目標:「バガスが世間に普及し、木材資源に依存しすぎない社会を創ること」

学園祭実行委員会が **エコ学園祭**を実施するために
必要な製品、ツールのパッケージを提案します!

狙いは、バガストレー導入の相談/バガス、トレーの普及啓発資料提供、啓発イベント/販路拡大等/活動の実施支援、バガストレーをはじめとする環境配慮製品/パッケージの提供、エコ学園祭実施に関する総合的なサポート、コンサルテーション

コンセプト バガストレー自体を訴求するのではなく、エコ学園祭の実施を訴える。そのため相談、コンサルテーションを通じて、エコ学園祭実施のためのツールをパッケージとして提供する。

マーケティング施策

学園祭の狙い

1. 環境配慮製品の調査や手配に手間がかかる。
2. 単年度でその運営ノウハウは継承されていないケースが多い。

企業のニーズ

1. 企業のイメージアップと販売促進をはかりたい
2. 新たな販路やチャネルをつくりたい

バガストレー (EFF)

- 他社の製品に比べて高価になるが、他社製品には無い付加価値をアピールする。
- 上記の狙いに応えるサービスを提供する。

バガストレー (EFF)

- 企業の具体的なメリットとなり得る顧客獲得につなげ、Win-Winな新しいCSRを提案する。
- 企業の取り組みが学生にアピールでき、大学とのチャネルが増える。

EFFが提供できる大学向けサービス
商品名:「エコ学園祭」
販売チャネル: 環境サークル、地域のエコ学園祭の活動団体ネットワーク

NPOのマーケティング5P

Place (活動する場所)

- 全国的大学生
- 環境活動をする学生が多い大学にチャネルを持っている青年の環境活動ネットワーク団体と提携する。自然エコ学園祭をやりたいたいという大学生も多い。

Product (提供サービス)

- 普及啓発資料
- 環境サークルに訴求する普及啓発資料の作成
- 学園祭当日における差別化ポイント、ホスターの作成
- エコ学園祭のネットワークを、各地でイベント/セッション/イベント/イベントとする
- 地域の産地/分野の中間支援組織と普及啓発に連携拡大について協議

Price (単価の低減させる)

- 全国または地方ごとに共同一括購入を促進し、単価を下げる仕掛けを創る
- 企業の戦略的CSRを促進し、販路獲得を図る

Promotion (製品/製品)

- 「エコ学園祭」パッケージ
- バガストレーだけでなく、個性化の啓蒙、オーガニックコットン/シヤツ、フェアトレードコーヒーなども導入したワンストップサービス
- エコ学園祭の開催のためのコンサルテーション/サービスを提供する

Participation (参加)

- 環境サークルや学園祭実行委員の学生を交えた商品開発会議
- 販路拡大に対して、環境配慮商品を拡大してほしいという学生の声を聴ける

